

# ひょうたん島通信

大槌発! 第17回

岩手県大槌町の大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センターのすぐ目の前に、蓬莱島という小さな島があります。井上ひさしの人形劇「ひょっこりひょうたん島」のモデルともされるこの島は、「ひょうたん島」の愛称で大槌町の人々に親しまれてきました。ひょうたん島から大槌町の復興、そして地域とともに復旧に向けて歩む沿岸センターの様子をお届けします。

## 調査研究船「弥生」竣工式

北川 貴士

大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター生物資源再生分野 准教授

去る11月12日、大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター所属の調査研究船「弥生」の竣工式を大槌漁港内で行いました。今年はじめて小雪がちらついていた寒い日ではありましたが、式には関係者のほか、赤浜・安渡地区をはじめ大槌町民の方々にも多数お越しいただきました。神事、餅まきも行って、賑々しいお披露目になりました。

わたくし自身は、昨年暮れに着任いたしました。この式の準備・運営が当センターでの初の大役となりました。普段は柏キャンパス勤務ということもあり、地元の皆様への案内、漁協への挨拶、神事の依頼など大変な準備もありましたが、「ぴーちゃん」に連日、関係各所へお願いをしに出向いて頂いたおかげで、段取りよく当日を迎えることができました。

調査研究船「弥生」は、大槌湾をはじめとする三陸沿岸の海洋環境を調査研究する目的で2005年1月に竣工いたしました。2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う大津波により、他のセンター所属の研究船とともに流失してしまいました。昨年の夏までに、地元の



新「弥生」の竣工式であいさつをする新野宏・大海研所長。背後に見えるのが「弥生」。

漁業者の協力も得て浅海域を調査する小型船外機付き研究船を3隻復旧させることができましたが、主力となる研究船の再建が待たれておりました。そのような中、関係各位のご尽力により今年6月から岩手県大船渡市の(有)須賀ケミカル産業で本船の建造が進められることになり、11月11日完成にこぎつけました。

この新しい「弥生」は、繊維強化プラスチック(FRP)製、全長13.85m、総トン数12トン、定員20名という大きさの、機動性に優れた研究船です。試験航海のあと、年内に本格的な調査を開始する予定です。

当センターでの共同利用研究、大学院の海洋実習などのほか、今年2月に完成し大槌港を母港とする(独)海洋研究開発機構の東北海洋生態系調査研究船「新青丸」(1629トン)と共に震災による東北沖の海洋生態系を調査する東北マリンサイエンス拠点形成事業にも活用される予定です。竣工式では碓川豊・大槌町長から「「弥生」は町の誇り、町の財産」というご祝辞を賜りました。本船の調査で得られた研究成果が、大槌をはじめ三陸沿岸地域の水産業復興・町おこしの後押しになるよう、センター・スタッフ一同努めてまいります。

## ぴーちゃん日記

### 新「弥生」完成! 竣工式! その道のり

2013年11月12日は調査研究船「弥生」の竣工式でした。2年8ヶ月前、目の前で沈んで行く前「弥生」の姿が思い出され、私は嬉しさも相まって涙が止めどなく溢れ出て、今日この場に巡り合えた幸運に感謝し、同時にこの1年間、建造に関わった方々に、とりわけ沿岸センターの技術系職員の方々に感謝していました。黒沢正隆さん、平野昌明さん、鈴木貴悟さんは、前「弥生」の操船経験を生かした仕様作成に始まり、建造中は共同利用

研究に完璧に対応しつつ、合間を縫って1時間半かけて造船所へ向かい、作業状況の確認・細部への指示・業者との交渉を繰り返しながら、新「弥生」を完成させてくれました。

また、大槌町では岸壁を工事のため、まだ船を係留する場所がない現状ですが、漁協や漁師の皆さんに何度もお願いして、竣工式当日やその後の係留場所を確保もしてくれました。

彼らのご尽力の賜物と言える新「弥生」

の完成に、ありがとうございました、の感謝の言葉しかない竣工式でした。



時速40kmで疾走する新「弥生」。前方には波が跳ねない工夫がしてある。

制作：大気海洋研究所広報室（内線：66430）